

シンリムカ 文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2025. 4. 25

No. 26



平取町の文化的景観「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」の普及事業が様々に行われている

文化的景観を普及するための様々な取り組み

文化的景観は、その土地の歴史や風土に根ざした暮らしの姿です。平取町では文化庁や全国文化的景観地区連絡協議会（文景協）、奈良文化財研究所等と連携し、様々な普及・啓発の活動を行っています。令和6年度は10月24日から2日間、文景協平取大会が行われ、全国の関係者と地域の暮らしや文化振興、河川や森づくりの姿を共有する機会がもたれました（写真①②③）。また、同年は文化的景観の制度が創設されて20年の節目でもありました。文化的景観20年事業の関連企画として、文化的景観の調査・研究を知ってもらうためのポスターセッション（写真④）、20年記念パネル展（写真⑤）、文化的景観保護の輪の広がりを見える化するための20年マークの作成と活用（写真⑥）、平取町の重要文化的景観を紹介する動画の制作・公開（写真⑦）等が行われました。

YouTubeにアップロードされた動画【文化庁発】制度創設20年企画「文化的景観へ行こう！」は、地方公共団体の担当者とともに重要文化的景観の魅力を紹介する作品で、令和7年3月の時点で6作品がアップロードされています。平取町は「第6回 アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」として17分30秒の動画が編集されました。主な内容として、文景協平取大会の講演や事例発表、アイヌ古式舞踊の披露、現地見学、平取町の文化的景観についての概要説明などの様子が収められていますので、その時の良い雰囲気も含めぜひご覧ください。

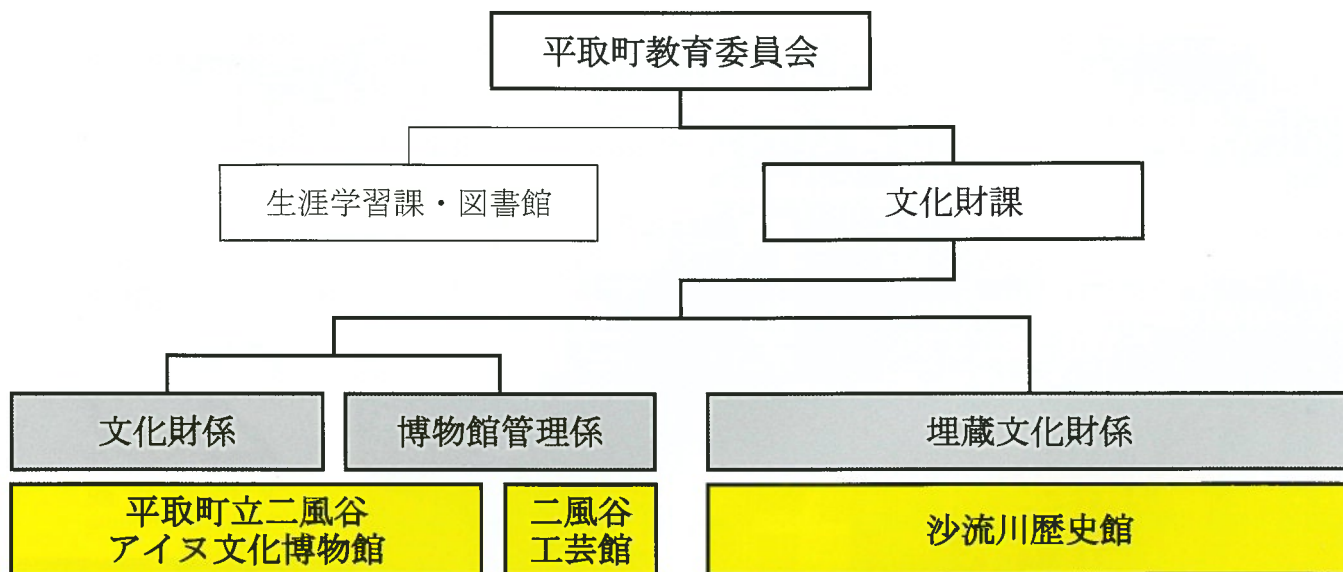
（長田佳宏）



↑ YouTube 動画はこちらから

令和7年度文化財課職員体制

今年度の平取町教育委員会・文化財課の職員体制をお知らせします。



館長 長田 佳宏（文化財課長 / 学芸員）
主幹 山下 恵（博物館管理係長）
職員
廣岡 絵美（文化財係主査 / 学芸員）
守屋 李佐子（任期付職員 / 学芸員）
坂本 エミ（文化財係）
藤川 涼子（博物館管理係）
進藤 千賀子（二風谷工芸館）



館長 長田 佳宏（文化財課長 / 学芸員）
係長 津川 貴晃（埋蔵文化財係長）
職員
西 希（任期付職員 / 学芸員）
久米 智江（埋蔵文化財係）
佐々木 知代（埋蔵文化財係）
笠原 早百合（埋蔵文化財係）

開拓財産資料館一般公開（5/2～11/28）

公開期間中の月・水・金の午前中（祝祭日は休館）に開館しています。解説を希望される場合は博物館に問い合わせ願います。



★異動のお知らせ★

皆さま、お世話になりました
阿部正子（主幹）→平取町役場
貫気別支所へ

（阿部正子）

◇沙流川歴史館企画展開催中

4/22 ～ 6/8

4月22日（火）から6月8日（日）まで、令和7年度沙流川歴史館企画展『過去から今へー平取の発掘とまちづくりー』を開催しています。

平取町では、昭和58年から平成26年にかけて、24か所の遺跡で発掘調査が行われました。その多くが、市街地の再開発や大規模な建物、ダムや道路の建設工事の予定地でした。工事により遺跡を保存することができないことから、緊急に遺跡の内容を記録するための発掘調査が実施されました。

今回はその中でも、とくに日々の暮らしになじみ深い施設がある場所や道路ができた場所で行われた発掘調査の概要を紹介するとともに、発掘前と現在の様子などを比較した写真や町内で確認されている遺跡などを展示しています。入館は無料ですのでぜひご来館ください。終了後は移動展をふれあいセンターびらとりで6月10日（火）から29日（日）まで開催する予定です。

（津川貴晃）



ピパウシ2遺跡 発掘調査前(1993年)



ピパウシ2遺跡
現在の様子(2025年)
沙流川歴史館が建っています。
左側に写っている建物は二風谷アイヌ文化博物館です。

き

◇「未来に残したい樹木」大募集！

沙流川歴史館では、今年の秋に開催する特別展で町の保存樹や町内にある「未来に残したい樹木」を紹介する予定です。そこで、みなさんの「未来に残したい樹木」を次のとおり募集していますのでぜひご応募ください。

- 対象樹木 見事な花・珍しい花を咲かせる樹木、紅葉がきれいな樹木、樹勢が素晴らしい樹木、いわれ（言い伝え）のある樹木、樹木による景観が美しい場所（並木）など
- 応募条件 町内で見学できる場所にあること 私有地の場合は所有者の承諾があること 職員による写真撮影や立ち入りを承諾してもらえること
- 応募方法 樹種、樹木や景観の場所、見ごろの時期、おすすめ理由、写真（無くても構いません）を持参または郵送、もしくは電話、FAX、メール等で連絡
- しめ切り 7月31日（木）※できる限り見ごろを迎える前に応募してください
- 連絡先 沙流川歴史館（平取町字二風谷227-2）
電話 01457-2-4085 FAX 01457-2-4086
メール sar.muse@town.biratori.lg.jp



保存樹 旧川向小学校 カシワ

みなさんは、「考古学」「発掘調査」「遺跡」と聞くと、どんなことを思い浮かべますか。今回は、こうしたテーマについて、よくいただく質問に答えてみようと思います。

考古学って、古い時代を研究するんでしょう？ 大体いつの時代が対象になるの？

考古学は、遺跡の調査・研究から人間の暮らしや活動などを考える学問です。人類の誕生以降の時代が考古学の対象になります。

こう言うと、旧石器時代や縄文時代のようなとても古い時代だけが対象だと思われるかもしれませんが、人類の過去の物質文化のことであれば全て研究対象です。沖縄などでは太平洋戦争の防空壕の跡までもが考古学的に調査されています。

発掘調査をする前に、なぜそこに遺跡があるってわかるの？

遺跡とは、ひとことでいうと人間の活動した痕跡です。ピラミッドのような巨大な建物から、地下に埋もれた住居の跡まで、さまざまです。

人が暮らしやすい場所であれば、遺跡が残されている可能性があります。川の近くなど、手近に水がある場所は住みやすい場所の一例ですね。

地面が舗装されず、土がむき出しの場所では、土器や石器のかけらなどが見つかることがあります。そうした場所は、そこが遺跡であるか、近くに遺跡があるという目印になります。

北海道には、遺跡がいくつあるの？

2024年4月現在、北海道では12,406か所、平取町では127か所の遺跡が確認されています。しかし、そのうち発掘が実施された場所ごく一部です。



川向・シリ3遺跡発掘調査のようす

歴史館では、平取町で発掘された資料が数多く展示されています。企画展『過去から今へ-平取の発掘とまちづくり』も開催中です。ぜひお越しください。（西 希）

参考文献：

一般社団法人日本考古学協会 <https://archaeology.jp/>

菊池徹夫 2007『考古学の教室 ゼロからわかる Q&A65』平凡社

北海道教育委員会 <https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/houzouitiran.html>

アイヌ語を覚えてみよう ②④

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回は、パイカラ（春）に関するアイヌ語用例を、萱野茂のアイヌ語辞典（三省堂）から紹介します。

ニトペ アナクネ パイカラ ナ ウパシ アン ウカ カ アン ラボク タ イヨッタ ア・ウク エ
アシカイ ペ ネ＝木の乳汁は春にまだ残雪のある、堅雪になった頃が、一番採取できるものだ。

パイカラ アン コロ ソコニ イヨッタ ホシキノ ケニ ドク ペ ネ＝春になるとニワトコが
一番先に芽が出るものだ

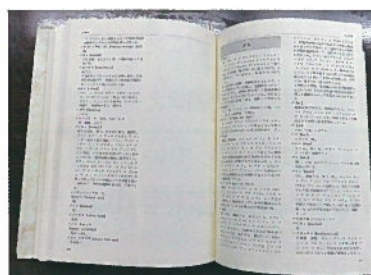
タン パイカラ タ タント エアシリ カクコク ハウエヘ アシ
カシ(ク・アシ) ワ ク・イコカヌ＝今年の春になって今日初めて
かっこうの鳴く声が聞こえ、私は立ち止まって耳を傾けた。



シネアン パイカラ イサロイキプ ア・コロ ヒネ “オケネウシ” ド ラシ アラパ・アン タ
シテクテク イサロイキプ シクノ プクサキナ ア・ウク ワ イワカン (イワク・アン)＝ある
春のこと、やや大型の背負い袋を持って「オケネウシ」
(という沢)を登って行き、あっという間にやや大型の
背負い袋いっぱいニリンソウを採取して帰ってきた。



これらのアイヌ語文章からも春の情景がいきいきと想像できますね。読み物としてもとても面白い「萱野茂のアイヌ語辞典」を皆さんも是非、手に取ってみてください。



ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）
(生涯学習課 関根健司)

沙流川流域の野鳥たち No.14

スズメ目モズ科

観察難易度：★☆☆☆

モズ

学名：*Lanius bucephalus*

英語名：Bull-headed Shrike

漢字名：百舌

大きさ 全長 20cm（スズメよりひとまわり大きい）

鳴き声 “ギューン、ギューン” “キチキチキチ…”

高鳴き



漢字で『百舌』と書くだけあり、100種類の鳥の鳴き声を真似するといわれています。求愛期には特にいろいろな鳥の鳴き声を取り入れて、さえざります。秋には目立つ場所で“キー、キィキィキィ”と騒々しく鳴きたてる「高鳴き」と呼ばれる声を出し、縄張りを主張します。

特徴 頭が大きめで、尾が長い。オスは頭上と脇、腹が茶褐色。上面は灰色。目を通る黒く太い線が目立つ。頬、喉は白っぽい。尾は黒褐色。メスは頭から上面は茶色っぽい。目を通る線は茶褐色。下面から脇に褐色の鱗状模様がある。くちばしがタカのように鋭いカギ型をしている。



オス

生息環境 平地から山地の草原、農耕地、河川敷など
時期 夏鳥。4月上旬に渡来する。道北や道東では生息数が少ない。秋遅くまで残るものや越冬するものもいる。



メス

写真：太田裕子氏（新冠町）提供

驚きの生態！ 「モズのはやにえ」とは…？

秋が訪れ、モズの縄張りを主張する高鳴きが聞こえ出すと間もなくして、身近な草木の枝先に虫やトカゲなどの小動物が刺さっている光景が観察できるようになります。

偶然？イタズラ？いえいえ、それはモズのはやにえです。モズが捕まえた獲物をすぐに食わずに枝に刺して置いておく行動です。はやにえ（早贄）とは、いけにえ（生贄）を意味する言葉です。モズが捕まえた獲物を神様に捧げるいけにえにしていると見立て「モズのはやにえ」となったようです。

モズは何故そんなことをするのでしょうか？モズが「はやにえ」を行う理由には、縄張り意識の強いモズが自分の縄張りを示しているという説と、エサのない時期に食べる“保存食”にするためという説があります。どちらも一理ありますが、獲物がずっと刺さりっぱなしで放置されてることも多いようで、詳しい事はわかっていません。可愛い見た目とは裏腹に“小さな猛禽”と呼ばれる、根っからのハンターなモズでした。



開拓財産 ～むかしのどうぐ～

【アイヌと近代開拓】

テーマ1：学校(8)
長知内小学校②

明治 35(1905) 年に開設された長知内簡易教育所は、大正 6 (1917) 年に公立長知内尋常小学校となりましたが、やがて平取村の財政難により学校は閉校の措置をとることになりました。

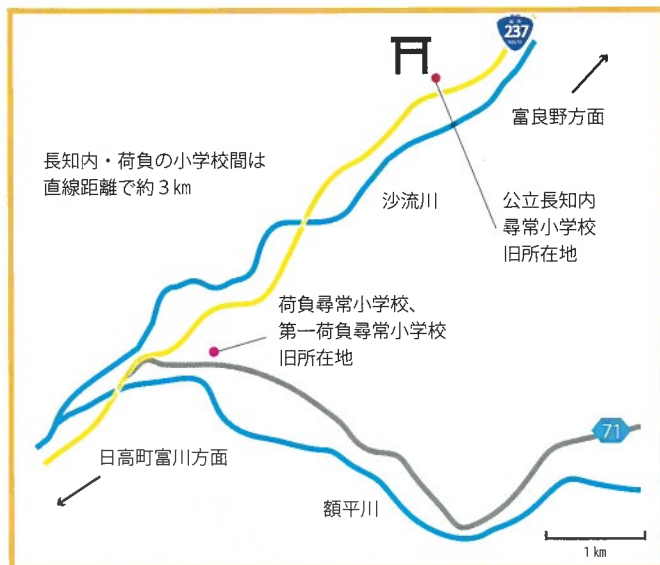
当時の様子は『北海タイムス』大正 15(1926) 年 7 月 26 日で紹介されています。見出しは「哀話 学校がなくなつて平取アイヌ陳情 往復四里を通はねばならぬ可哀想な子供」です。

記事によると、当時の長知内村の戸数約 40 戸のうち 37 戸はアイヌの家庭でした。長知内小学校の年間運営経費は千円、教員は 1 名、児童は 40 名で、そのうちの 37 名はアイヌ児童でした。学校を閉鎖する場合、児童は隣の荷負村（平取村の村落の 1 つ）へ往復約 4 里（約 15.7 km）の距離を通学することになります。また、通学に伴い沙流川を渡る必要があるため、児童全員の渡船賃を支出（年間 1 人あたり最低約 6 円）する必要がありました。

当時の荷負村では、アイヌ児童は荷負尋常小学校（国立旧土人小学校）、和人児童は第一荷負尋常小学校に分けられて授業が実施されていました。

長知内村の代表者 3 名は学校継続のために北海道庁を訪問し、窮状を訴えました。

公立長知内尋常小学校は翌昭和 2（1927）年 9 月に国立旧土人小学校に移管されました。昭和 12(1937) 年に国立旧土人小学校が廃止になってからも昭和 15(1940) 年まで国費による存続が維持され、同年度中に公立小学校として存置されました。（廣岡絵美）



▲ 小学校位置図



▲「長知内小学校（元旧土人学校）」と題して掲載されている写真。昭和 24(1949) 年頃撮影。出典：平取村開村五十周年史編纂委員会『平取村開村五十周年史』（1952）。

平取町開拓財産資料館（旧荷負小学校） 平取町字荷負77-3 見学のご案内

【開館日時】＊変更の場合あり
5～11月の月・水・金曜日（祝日休館） 9:00～12:00
上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】
平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892
または 沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■2025年「国際博物館の日」記念事業

ICOM（国際博物館会議）では、5月18日を「国際博物館の日」としています。記念事業の一環として、無料開館および記念品の贈呈を行います。ぜひご来館ください。

日 時：5月18日（日）9:00～16:30

対 象：19名以下の個人

■沙流川歴史館

企画展「過去から今へ

ー平取の発掘とまちづくりー

期 間：4月22日（火）～6月8日（日）

場 所：沙流川歴史館企画展示室

休館日：毎週月曜日

（GW期間中は開館しています）

■企画展移動展

期 間：6月10日（火）～6月29日（日）

場 所：ふれあいセンターびらとり

■レンタサイクル実施します

沙流川歴史館では、無料で自転車の貸出（レンタサイクル）を行います。

期間：4月26日（土）～10月31日（金）

時間：9:00～16:00（16:30までに返却）

台数：大人用5台・子ども用3台

■二風谷の写真 募集

秋に開催予定の2025平取町立二風谷アイヌ文化博物館特別展「二風谷の記憶-くらしと観光-」では昭和30年～60年代の観光ブームの中で撮影された二風谷の写真をとおして、当時のまちの風景や人々の営みを紹介します。展示では、地域の皆さんの写真も活用し、より多くの視点から当時の二風谷を伝えたいと考えています。ご提供いただいた写真を、展示の中で紹介させていただきます。「うちにもあるかも？」と思った方は、ぜひお知らせください。

▷応募条件

- ・昭和30年～60年代の二風谷の様子（風景、観光、くらしなど）が写っているもの
- ・人物が写っている場合は、本人、ご家族等の承諾を得たもの

▷写真について

- ・タブレットやパネルでの展示となります。
- ・スキャン（デジタル化）したのち、返却します。

※データは博物館の資料として保管します。

▷応募方法

写真を持参または郵送、もしくは電話、FAX、メール、SNSのメッセージより応募ください。

2025年4月

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

2025年5月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2025年6月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

2025年7月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

● 歴史館休館日 ● 歴史館企画展 ※博物館は11月15日まで毎日開館しています



シシリムカ文化財だより No. 26

2025年4月25日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

